

令和7年度北上市市政座談会  
～きたかみまちづくりトーク「WAになって話そう」～in 黒沢尻北

## 報告書

日時 令和7年10月15日（水） 午後6時から7時30分まで

場所 黒沢尻北地区交流センター

参加者 地域参加者：36名

市出席者：11名 ※他事務局等7名

### グループトークテーマ

- ①：若者、子育て世代、高齢者が”参加してみたい”と思える自治会とはどんな姿ですか？
  - ②：地域の大人が始められる子どもの居場所づくりの”できること”は何だと思えますか？
  - ③：ごみ出しのルールをみんなが分かりやすくなるためにはどんなものを考えますか？
  - ④：市立大学の設置について、あなたはどのように思いますか？
- 

### ①グループ

- ・自治会活動への参加について、子育て世代や独身者にも参加してほしい、全ての世代が一度に参加するのは興味を持つものが違うから難しい、集まってイベントをすることが難しくなっている、コミュニティに参加しなくても生活できると考える人が増えている、等の意見が出された。参加などを促す工夫として、夏休みボランティアという学校の活動と紐づけて草刈りを行っている、厳格な管理にこだわらない、という意見も出た。
- ・自治会の運営について、民生委員や国勢調査の調査員を受けてくれる人がいない、頼んで断られる度に心が折れる、個人情報取り扱いに悩んでいる、人手不足に対する公的な支援や仕組みが欲しい等、自治会に限らず担い手が不足しているという意見が多く出た。
- ・自治会活動において、顔の見える関係性が大切であり、特に災害時には共助を行う上で重要だという意見が多く出された。

### ②グループ

- ・子どもたちの居場所について、学校が一番安心できる子どもたちの居場所であってほしい、地域で預かる責任を持つのは簡単ではない、地域で顔の見える関係性をつくる、保護者同士のつながりを持つことが子どもたちのために重要だと思う、等の意見が出された。居場所の考え方が難しい、という意見が多く出され、子どもたちが落ち着いて安心していられる場所と広く捉えることが良いという話があった。
- ・子どもではなくスマホを見ている親が、家庭で子どもの居場所をつくれるのか、という意見もあり、交流の大切さに気付ける働きかけが必要ではないかという話があった。
- ・SNSが子どもたちの居場所になることによる問題、大人が想定する居場所と子どもが求める居場所の相違などの話題が市出席者からあり、子どもの居場所は特定の世代だけの問題ではなく、みんなで考えていく必要があるという感想が共有された。

### ③-1グループ

- ・ごみ集積所の現状について、正しいルールでごみが出されていないので、公衆衛生指導員の負担が大きい、集積所の場所の確保が難しく、移動も簡単にできない、不法投棄が続いた集積所では、時間帯の徹底や鍵を取り付けるなどの対策を行った、地域で管理している集積所に地域外の人のごみを捨てる現状に納得いかない、等の意見があった。
- ・ごみ出しのルールを守らない人とのトラブルが起きたという話が出た。市出席者からは、地域内でのトラブルを避けるため、誤った出し方をした個人が特定でき、指導が必要な場合は、担当者が個別に指導を行っているので連絡してほしいという話があった。
- ・その他、ごみ袋の手数料に関する意見や焼却施設が同じ市町村とのルールの統一、ルール変更があった場合の周知の徹底、ごみ袋への記名等を望む意見があった。ごみ問題は簡単に解決できるものではないので、もっと話し合いたいという感想もあった。

### ③-2グループ

- ・ごみ集積所の現状について、時間や仕分けなどが守られていない、班会議で毎回ごみ集積所について話し合っている、ごみを出した人に間違っていることを教えるようにしているが対応が追い付かない、資源ごみを洗わない、分別ルールの掲示が昔のままになっている、転入者が北上市のルールを把握していない等の問題が挙げられた。
- ・ルールをみんなが守れるようにするために、注意喚起カードのごみ袋への掲示、回収する際の不適正内容の記載や表示、市の窓口と自治会による二段階のルール説明、ミニ講座の開催、悪質な投棄には市の巡回強化や監視カメラの検討、ごみ袋への名前の記名等、具体的な案が多く出された。
- ・ごみ集積所の使い方については、一人一人が自覚して、守っていかなければならない、問題意識を持った人たちの輪が広がれば良いという思いを共有した。

### ④-1グループ

- ・大学設置について、何を目的として大学を作るのかの説明がないと感じる、大学のあるまちは魅力的だと思うが、経営や財政面等に不安がある、もっと時間をかけて市民の理解を得ながら検討した方が良い、大学の魅力はどんな教授がいるかも重要になる、設置が前提になっているように感じる、判断材料がもっと欲しい等の意見が出された。
- ・再開発と一緒に動いているのが気になる、という意見があった。市出席者からは、再開発は、商店街で組合を作って進めている事業で、大学の計画とは本来別々の話あり、大学が建設されなくても再開発事業を組合では進める予定であるという話があった。
- ・メリット、デメリット両方の説明をしてほしい、人材確保の点は良いと思っているが、まず問題を解決してほしい、市民みんなが納得できるような説明の仕方を考えてほしい、等の感想があった。

#### ④-2 グループ

- ・大学の設置について、整備事業と一体化していることに不安を感じる、別なことにお金をかけてほしい、設置には反対で教育の視点で議論して決めることだと思う、本当に若い人が集まってくるのか、もっと情報が欲しいと感じている、設置自体に反対ではないがもっとしっかり考えて進めるべき、等の意見があった。
  - ・大学をつくるならば、北上市のビジョンを真剣に考えなければならない、若者を引き付けるような仕掛けが必要、コンピュータ・アカデミーを進化させた形なども考えられるのではないか、社会人枠を拡充させるような方法もある、等の考えも出された。
  - ・市出席者からは大学設置の経緯や再開発事業についての話もあった。参加者からの感想では、知らないことを聞くことができ良かった、地域でも普段話すことのない方の意見を聞くことができ良かったという声があった。
-

# グループトークの様子



**黒沢尻北地区の皆さま  
たくさんのご参加ありがとうございました**